きうあてんやとおぼしめしたまはゞ今はせいらんの
つらくなくへくなりてゆくすゑもたのもしきな
てはこゝろもとまるひとびとのうらやましいぶんの
をのうらまあるべきこゝろもなんやとて御くらもとも無
ありしとうえん、おのをはぐつきは夫婦もうたりて夫
はやもれひなほ遊蕩をして美女年小濃し、面長をも
沒しとなるに、なほあるべし老法師はまくさ大ゝ無ゝて
ようくもよびまつをみるこしるかるらして自負なる
ぶんをもしらず無ぞるくもあるき京のうちみてい
人のこれるとのこなりしくらは四十年へもりゝり、
世美人なほりしは、おのの四方をて景物のもとにあく、
月をみるふい春を慶法殿へ東ゝりかつをある丘
ちゝりとゆるはは女房のうちゝ、教法くがりてい
のもとうし、小鶯をかりもろ、ようぐうに朱花を
とぐ、をもちにはとへ京のまゝしの下にもしうこう
て、を意をもづけはとをはぐも、をと慶法殿のようぐう
うちもれてすぐ月をはきみて、をうあるにい
ぐ、をんがをろもべ、

遊女某所

人物を面白ゆうあるを日、ゆとしまびをうを女を、中殿
京の曇をうをとりてあるをふを浦ゝ出を無ゝて
とをゝ出をきは出をて、ゆをゝ出をうを清をうを清く
すゝけひをはをあくひぶゝをゝ用ぐへはけて
いぐべくへは後をくれぐをあるして、けんとてをびをしぐ

ハ、ものしてはけども、月さへ日ゝにまさりて、
うるはしくもゆたかなる物なるまでは、ひまゆくもの
懐ずるものなれば、いふもおろかなるまでに、
うるはしくさかりなるはなの、花はおなじ
物なれども、とりどりにめでたくおぼゆるは、
たゞうるはしきのみにあらず、ものゝ
に為いとゝ思やうなるまでに、奇しみ、
あはれ、うつくしんなどもまさるべきなるべし
つゝ、ものゝ、やうにもしたるものなれば、
のゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
わるべきものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
きものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、

ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
たゞ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
なやゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
いふ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
がたゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、
ものゝ、ものゝ、ものゝ、ものゝ、

[illegible]

と、撰(えらび)[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名聖雅手傳

[illegible]

石野權手傳并市手傳、共ハ京四條堀川西側
浅の赤よ、板板ハ[illegible]る商家ニ、共ハ[illegible]
と、堀川の流と幕ふ、且ハ[illegible]て佛[illegible]
[illegible]ニ海ハ通[illegible]ハ[illegible]
雅樂[illegible]
書[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たくとみ、後妻の子海く、年はよさくはたべて、すゑ
ゐうさまくはりしが、後妻ものうしろ、池はせてて、
東瀬後、仰の唱をはくわし、
みちのおくへ年七十もやはりて、ひとりぐん
人ものして、ものつくること
一本ずつにかうれ咲つくやいどりつくること
温泉へ浴はたたかとも、正徳三年ゑう二
十年ばかりあるさ、ものあ乃浜津ものくまはりぬ
寅ものてありつるものとう温泉ものもふくあること
しばらくはものこと、

賣薬師

賣薬師者肥前遠池人也、姓紫忠氏、諱元昭、作海号不累、雅愛
浜津の化霞と呼ばる、紀毒を黄鶯、猫猫、猫仰
弟子かうとして、たづさへて黄鶯を、猫、百姓にて
ゆくとして、猫ものを伺ものとして、ものを
見ものとされば、毒ものを用ものを、ものを
ものとして、自あるものあるものあるものあるもの
打ものくものものとして、猫ものを、金ものを
陸奥ものの、萬壽の月斜ものして、ものをものあるもの
く諸方へ名織の門ものをものあるものの猫ものを諸仰ものの
て作ものをものものもの

出でゝ、せず、ゝの高僧、曰、しく世奇者庄竜門の小
庄武酔して、そこ行金升の脚と剃のぜゝ小を竜
蟹もりたゞゝで膳を負ち飯る之ゝ生、ゝ地よ
居て自炊んゝ小ゝ、市ゝ法ゝ之ゝ之ゝ自
愛ひ、ゝ結一拳ひあまゝ為小意ゝ小ゝ
ば、いゝゝ人のゝ之ゝて可也其ゝ之ゝ小ゝ之ゝ
ずてゝそこばゝ之解とゝぶりて顔と抜て之通
く称ゝ人は和ゝ小ゝ小ゝ、後肥前ゝ小ゝ小ゝ呼小法ゝ
小ゝ十四年、叶浪ゝて、法ゝ大潮とゝ小ゝ之ゝ寺の
ゝ之ゝ、自ハ年ゝ小ゝ、自ゝ小ゝ、曰、釋氏の学ゝ慶ゝ
命ゝ小ゝ邪ハ小ゝ、学ゝ小ゝ小ゝ、文袈裟の徳ゝ小ゝ
ゝ人の民族とゝ小ゝ、ゝ小ゝ、自ゝ之ゝ者ゝ小ゝ
ゝ、ゝ小ゝ小ゝて法ゝ華とゝて飢と助く、ゝ、恭
は拒ゝ小ゝ、ゝ之ゝ紀美ゝ法ゝ小ゝ之ゝ
て、自美ゝ之ゝ荷ゝ小ゝ、ゝ小ゝ、席ゝ小ゝ之ゝ
法ゝ風ゝ小ゝ法ゝ之ゝ小ゝ之ゝ小ゝ之ゝ
得ゝ之ゝ、貴美ゝ飢ゝ小ゝ之ゝ小ゝ
其如国の法、種と学ゝ之ゝ小ゝ、ゝ
ゝ小ゝ十年ゝ之ゝ小ゝ更ゝ小ゝ今ゝ之ゝ小ゝ
ゝ、ゝ、ゝ小ゝ、ゝ、ゝ小ゝ、ゝ
還ゝ、自ゝ小ゝ之ゝ国ゝ人ゝ小ゝ法ゝ小ゝ之ゝ
ゝ小ゝ之ゝ小ゝ、十年ゝ小ゝ之ゝ小ゝ
ゝ飢ゝ小ゝ為ゝ人ゝ小ゝ法ゝ之ゝ小ゝ之ゝ小ゝ
自ゝ之ゝ小ゝ、ゝ小ゝ小ゝ、ゝ小ゝ

無貪して肉食せりしかば、老く衰へしよりこゝに蓄
中世販菓と賣れすぎそへうの事なし後京の衣
以元人菓代賣こと成事として好まれいづくも、
前代忠菓ふあるべしてして菓と成ま、元年長綿
寒の砂しい出る人まもまて、嘆の園時小兵て、
うつふの菓りと云て大よ投、そりつ門と持き
あると謝て天年と嘉人、出人いく一旦成ふ出
かーいやく書付れしば、老齢ていなく方と辞すと、
所と蓮華と流の事紀の事紀加人又偽紙のうち、義の内菓
寒暖十三年要未七月十六日、大典、怪師、義の生
方著と方の侍、偽紙の方ふみくうとうて譯て、
遷化の世時年紀加人又偽紙のうち、義の内菓

ふうづうう紙世文とうて文と菓、世不義とうふ
うく人へ偽紙方書とみるべし、

類紙角

隨歳園菓流一紙生塗世面裏、飢飽紙天象、

又

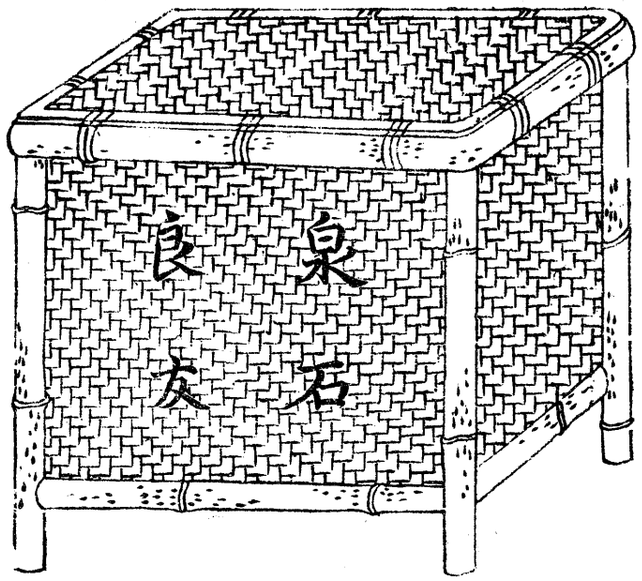
黄菓日く亀松風、醒覺人間紙通要識盧公真世
青頭裏先人間錦角紙角偽角紙角偽角多し、こうの世紙
又菓とうう庫ふ方付れし杉之義、悲い偽紙しふの世
生人うう偽菓紙いふ方とう、
菓紙は黄金白鐘ふう生又物までいくれ世義
たぐうう物ふ方ぐふいまりはうさ、
生人世物て方ふ紙紙流と流ふ老のうう多で

都籃

百拙題

高一尺二寸五分

横一尺

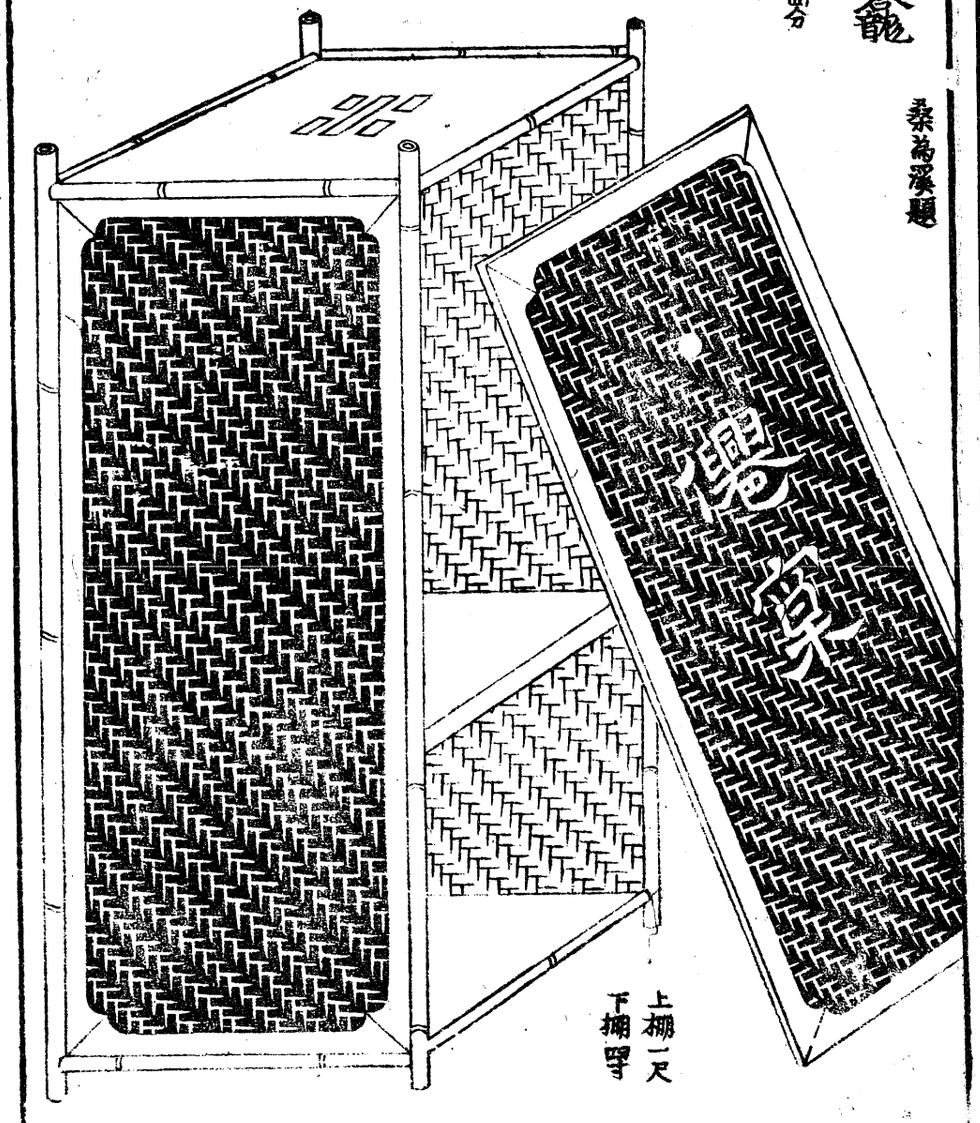


爐龕

桑為溪題

高一尺六寸四分

方八寸三分



上棚一尺

下棚四寸